

伝統文化を学ぶ

花器づくり (6/9)

今年も陶芸家の高山正道さんにお世話になって、花器制作を行いました。初めに先生が、細長くひも状に伸ばした粘土を土台に積み重ねて作る方法や、「たたら」という細長い棒を使って、均一に伸ばした板状の粘土をつけて作る方法を示してくださいました。

94名のミニ陶芸家たちが、一生懸命に作りました。



一ヶ月程自然乾燥した後、素焼きをして、釉薬をかけて本焼きという流れで世界にただ一つの花器が完成します。

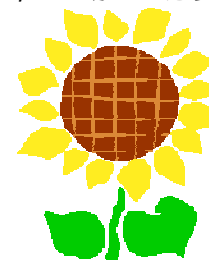
～ 6年生の体験学習 ～

池坊短期大学での生け花体験学習 (6/17)

池坊短期大学に行って、生け花を教えていただきました。自由に表現する「自由花」を学びました。

はじめに、細いフトイを剣山にさし、主になるひまわりとガーベラを生け、ポイントとなる花材を次々に生けていきました。

美しい花にはさみを入れることは、思い切りが必要です。花の表情「にこにこ・つんつん・ピーンピン」を合い言葉に、それぞれの花の特徴をしっかりとらえて個性溢れる作品が完成しました。



学校生活アンケート (6年生) から ～ 京都御池創生館で学習して ～

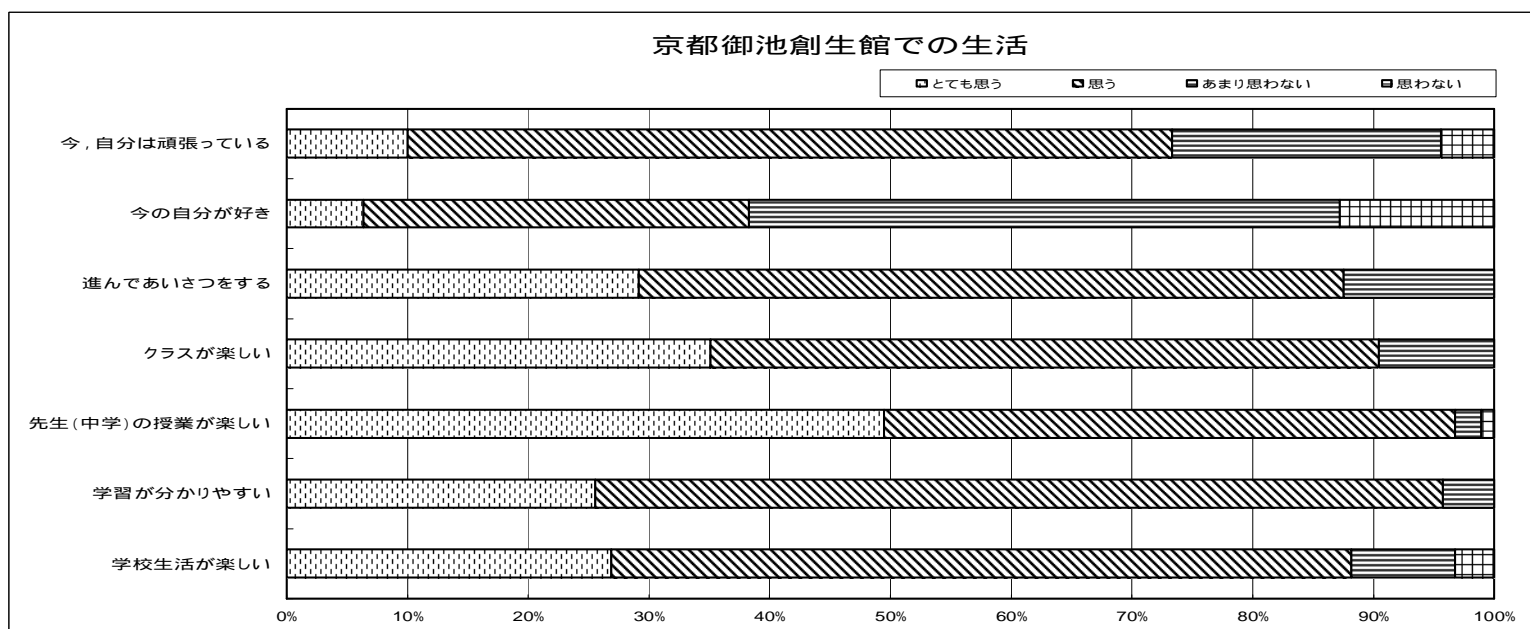
副教頭 清水 隆志

御池創生館での学校生活がスタートして3か月が過ぎようとしています。子どもたちは創生館の学校生活にも慣れ、中学校の先生の授業や中学生との交流授業、御所南小との合同の委員会活動、また、放課後の部活動体験と、創生館での活動を楽しみながら学校生活を送っています。

さて、先日6年生に創生館での学校生活についてアンケートを実施しました。学校生活は9割近くの子供が楽しいと答えています。その要因の一つとして、学校生活の基盤となるクラスが楽しく(友達や先生との信頼関係がある・自分の言動が認められる・居場所があり安心できる等)、その中で進んで学習に取り組み、内容をよく理解している。また、中学校の先生の授業も受けられるということが考えられると思います。また、7～9年生の姿からよい影響を受けて、自分からあいさつをする子どもも増えているようです。ただ、一部に楽しくないと感じている子どももあり、個別にその思いをよく聞き、支援をしていく必要があります。

一方、課題としては、「自分が好きでない」「がんばっていない」と答えている子どもの割合が比較的高いことがあげられます。6年生といえば、思春期に入る時期でもあり、心がゆれ動き、物事を批判的にとらえ、自尊心も低くなりがちな時期でもあります。その時期を、この創生館で過ごし、9年生の姿にあこがれを抱き、自分の目標をしっかりと定め、その目標に向かって努力を重ね、達成感や充実感を味わい、自信をもって学校生活を送ってほしいと思います。

最後に子どもたちが、もっている力を最大限に発揮し、よりよい育ちができますよう、これからも保護者の方と連携を密に取り組んでいきたいと思っています。



< 9年生との交流授業 >

9年生と体育の「体ならしの運動」の学習で交流しました。6年生の子どもたちは、9年生のやさしく、また、てきぱきと行動する姿に感銘を受けたようです。子どもの感想の中からは「小学校に戻ったら、9年生のように下級生にしてあげたい。」という声も聞くことができました。

< 中学校の先生との授業 >

6年生の英語・理科・音楽・図工で、中学校の先生が担任とT Tの授業をしています。中学校教員がその専門性を活かし、中学の学習内容とのつながりを見すえ、教科の特性にふれる楽しい授業を進める中、担任は子どもの様子に留意しながら、一人一人の考えをていねいに拾い上げています。